

球技系部活動に所属する体育系大学生の

競技意欲の低下に関する研究

スポーツコミュニケーションゼミナール 1315063 湯原 真貴

1. 研究動機・研究目的

大学の体育系部活動に所属している選手の多くは中学校・高校で競技レベルの高い成績を収めている人が多みられる。しかし、スポーツ選手なら誰も「やる気」が起きないといった状態に陥ってしまうことがあるのではないだろうか。大学まで協議を続けている選手はその競技が好きで、ここまで続けているのにも関わらず「やる気が起きない」といった状態になってしまうのはなぜかと疑問を持った。また、選手はどんなことが原因で「やる気」を減退させてしまうのかということについて興味を持った。そこで、本研究では体育大学生で球技系部活動に所属している選手にターゲットを絞り、どういった原因で競技意欲が減退していくのかということを知ることと、競技意欲を減退させる原因がわかれば選手のモチベーションの維持ができる方法が見つかるのではないかと考え、本研究に着目した。

本研究の目的は、所属選手の競技意欲が低下する理由を明らかにすることである。また、男女で競技意欲の低下理由の違いがあるのかを明らかにすることを目的とする。また、競技年数や競技成績によって競技意欲の低下に違いが出るのかを明らかにし、これらの結果を踏まえて、コーチが選手とどのような関わり方をするのか、チームを作っていくときにどのようなチーム環境にしていけばよいのかを明らかにすることが目的である。

2. 研究方法

本調査は、質問紙に回答を記入してもらう方式によるアンケート調査を実施した。各部活動ごとに2018年8月23日から2018年9月3日の期間に調査を行った。調査対象は、J大学の男子バレーボール部（26名）、女子バレーボール部（25名）、男子バスケットボール部（31名）、女子バスケットボール部（32名）の計114名を調査対象とした。

3. 主な結果と考察

アンケート結果から、選手のやる気に大きな影響を与えるのは大きく分けて「コーチの声掛けや選手との接し方」「練習時間の長さ」であるということが分かった。

まず、「コーチの声掛けや選手との接し方」については監督・コーチの指示はチーム全体を動かすものなので選手は言動をよく見ていると考えられる。また、その部活動に所属しているということは、監督・コーチのことを信頼しているからであると考えられる。その監督・コーチが自分たちのことを理解してくれなかったり、言っていることに一貫性がなかったり、自分を否定されるような言葉を言われてしまうことで選手は信頼していたからからこそやる気を消沈させてしまうのではないかと考えられる。

次に、練習時間に関しては6時間以上が全体でも、男女別にみてもやる気を消沈させる要

因として最も高い割合となっていた。練習時間が長いことによって練習のマンネリ化、自分の時間を取ることができない、疲労が溜まり回復しないなど悪循環に陥った経験があることからこのような結果になったのではないかと考えられる。

全国大会の出場経験の有無と「やる気」を消沈させる上位項目をクロス分析させた結果、一番大きな差がみられたのは「全国大会の出場経験の有無と練習時間（6時間以上）」であった。全国大会の出場経験が1～2回と出場したことがない選手は「強くそう思う」と「少しそう思う」の肯定意見を合わせると半分以上が「やる気」を消沈させると回答していたが、全国大会の出場経験が5回以上の選手たちは2つの肯定意見を合わせても、50%には満たない結果となり、「やる気」を消沈させる要因だと感じていない選手が半数以上という結果となった。この結果から、全国大会に5回以上出場している選手は練習が苦ではなかったといえる。自分の練習に対する「やる気」が高い状態であるからこそ結果を残すことができたのではないかと考えられる。

因子分析では2つに因子が抽出された。第1因子はコーチが否定的な言葉を使うことなどから「コーチの否定的な言葉かけ」軸、第2因子コーチと選手のかかわりについてであることから「コーチと選手の信頼関係」軸であった。試合出場状況と競技年数の関係性も分析をしたが、どちらも差がみられなかった。

4. 結論

全体的に見て「長すぎる練習」、「コーチの否定的な言葉かけ」、「コーチとの信頼関係」、「やる気」に強く影響していることがわかった。男女には多少の差はあったものの上位にランクインしている項目は同じものであった。競技別や競技成績別は多少の差は見られたものの、「やる気」を消沈させる項目について大きな差は見られなかった。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を終えて、コーチや監督と選手との関係は競技意欲を向上させるにも、減退させるにも大きな影響を及ぼすということが分かった。しかし、今回行った調査ではコーチと選手との信頼関係がまだ足りていないことからこのような結果となったのではないかと考えられる。これから東京オリンピックも開催されるためそれに影響されて部活動やクラブチームでスポーツを始める人も多くなると予想される。そこで、コーチという立場の人がいかに選手のやる気を高い状態でキープさせていくことができるか、選手とコーチの信頼関係を築けるかということが課題となると思われる。

最後に、指導教員の伊藤真紀先生ありがとうございました。異動されて忙しい中、時間を割いていただきとても感謝しています。

また、アンケート調査に協力してくださった方々に心より御礼申し上げます。